

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 3999
19年10月15日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

春闘アンケートにご協力をお願いします

おはようございます。
 昨年の西日本豪雨に続き、再び大雨による大災害が発生してしまいました。被災された多くのみなさまに心からお見舞いを申し上げます。

私たち郵政ユニオンは毎年、春闘・賃金交渉の基本資料となる「春闘の要求アンケート」を取りまとめています。来年20春闘ベースとなる「20春闘アンケート」は、10月1日から11月30日までの2か月間行っています。



昨年のアンケート結果から見える郵政労働者の生活実態・職場環境を簡潔に掲載します。こちら

も参考にされ、今年のアンケートにもご協力をお願いします。



19春闘アンケートで明らかになったことは、例年と変わらない厳しい職場実態と、その下であえぐ労働者の実態です。要員不足と過密労働に出口は見えず、生活実感・職場環境とも抜本改善にほど遠い。一方で、世代

間で問題意識に少なからぬ違いと変化も垣間見られました。

【生活実感】
 生活実感では「かなり苦しい」「やや苦しい」を合わせて63・2%。苦しい」と答えた層は20代の53・0%から年齢とともに増加し、50代以上で67・7%に達します。これに対して「まあまあだ」の層は20代の40・4%から年齢とともに減少し50代以上で30・5%となり、世代間の環境の変化を示しています。

【生活改善と要求額】
 「生活改善に向けていくらか必要か」の項では、例年と同傾向を示して、「5万円」が34・7%でトップ、以下、「3万円」「8万円以上」と続きます。要求額は「1万円」が34・9%でトップですが、「5万円以上」も15・4%。30代、50代の17・8%が数字を押し上げています。年齢とともに厳しさを増す生活実感、生活環境を示す数字とリンクしています。

年代で見れば40代で82・2%、50代以上で86・5%に上ります。役職等に課せられる強い圧力を裏付けるだけでなく、過密労働、深夜労働の積み重なる疲労も影響していることを見逃すわけにはいきません。

【職場の不満、不安】
 今の職場に対する「不満・不安」の項では、今回も「要員不足」が24・1%で圧倒的多数を占めました。職場の切実な声や組合要求にも関わらず一向に改善が見られませんが、二位の「賃金が安い」はむしろ昨年の14・8%から16・2%に上昇しており、労働者にとってはダブルパンチとなつていきます。



20春闘要求アンケートのとりくみ

20春闘アンケートを下記のとおりとりくみます。
 春闘アンケートは、私たちの生活実態に基づいた賃金引上げ要求の基礎となり、労働者の切実な声を会社との交渉で反映するためにも重要です。
 アンケートのとりくみを通じて、一人ひとりの労働者に声をかけ、じっくり話し合うこともできます。要求の集約だけでなく、組織拡大の行動の一環でもあることを常に意識し、とりくみを行いましょ。とりわけ、非正規労働者との対話では、労働契約法20条裁判の東京高裁・大阪高裁で勝ちとった格差是正の判決をさらに前進させ、年明けにも最高裁判決が出されようとしている山場でもある話も大きな武器になります。

記

1. 事務局団体 郵政リストラに反対し、労働運動の発展をめざす全国共同会議
2. とりくみ期間 10月～11月の2ヶ月間

【ストレスと健康】
 ストレスを「強く感じる」「やや感じる」を合わせた数字は81・2%で、18年の85・0%からは減少しているものの、依然として8割以上がストレスとそれによる健康不安を訴えています。

「要員不足」を指摘する声は40代以降で全体の平均を上回り、年齢・役職等とともに求められる過剰な業務実態が映し出されています。
 賃金に対する不満は20代で26・0%の高率を示しました。一般職という、正社員間に格差を持ち込んだ制度設計がもたらした結果とみることも出来るでしょう。